



防災だより

令和5年12月号

令和5年12月21日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部

今回のテーマ：「冬季休暇中の防災」～見知らぬ土地で地震に遭ったら～

新型コロナウイルス感染が落ち着きつつある現在、クリスマスや年末年始を利用して友達や家族と県外へ遠出をしようと考えている人もいないではないでしょうか。しかし、地震は予告なくやってくるものです。土地勘のない場所で被災した場合、自分と家族、友人両方の安全を確保するためにはどうすれば良いか考えてみましょう。

1. 外出先で被災した場合の3つの行動

行動①身の安全を確保

頑丈な机など、下に隠れられるものがそばにある場合は速やかに隠れ、何も無い場合はカバンなどで落下物や倒壊物から頭部を守る。海岸付近など、津波の危険性がある場合は急いで高台に避難する。

行動②避難

宿泊先で避難する場合

帰宅の交通手段が確保できるまで留まり、確保の目途が立たないようなら宿泊の延長が可能か確認する。自分の判断でむやみに行動せず、スタッフの指示に従うことが大前提。しかし何らかの事情で指示が出来なくなるかもしれない状況も考慮して、ホテルや旅館の非常口と避難経路は事前に確認しておく。

観光先で避難する場合

現在地から一番近い避難場所に避難する。自分本位で行動せず、必要に応じて現地の人に助けを求める。ガイドブックやハザードマップなどで旅行に行く前に、一時滞在施設や避難場所の位置と経路を確認しておく。

行動③家族へ連絡

無事を伝えるとともに、いったい何がどんな規模で起きているのか、外部からの正確な情報を得る。電話が通じない時は「災害用伝言サービス(電話番号/web 171)」や「災害伝言板(スマートフォン)」を活用する。

2. 旅行先にこれだけは持っていきたい防災グッズ BEST5

1	現金 (硬貨含む)	2	モバイルバッテリー	3	健康保険証	4	衛生用品 (マスク、生理用品)	5	旅行先のハザードマップ (紙に印刷したもの)
---	--------------	---	-----------	---	-------	---	--------------------	---	---------------------------

防災ポーチ(「防災だより」7月号掲載)を持っていくことをお勧めしますが、作る時間がなかったら、せめてこの5つを旅行時に持ち歩くカバンへ入れておきましょう。寒さ対策に予備の使い捨てカイロも用意しておくといいでしょう。

旅行先で被災した場合、皆さんは施設の従業員や周辺住民を含めたその地域の被災者の1人として扱われます。むしろ「若いから72時間は自分で何とか出来る」と見なされ、様々な支援が後回しになる立場に置かれるかもしれません。事前準備をしっかりと、出かける時から「何があっても自己完結」という心構えで外出しましょう。

冬の地震に要注意！

内閣府が最悪の被害想定に挙げているのが「冬の深夜」です。エアコン、床暖房、ストーブなど暖房器具は電気を使うものが多く、万が一地震で電気とガスが止まった場合は一切使えなくなります。特に真冬は都市部でも氷点下に下がることもあるため、長時間暖房のない状態であると、室内であっても低体温症のリスクがあります。停電時に暖をとれる方法を模索しましょう。また、冬は気温が低いため空気が乾燥しやすく、季節風によって風も強まります。そのため、暖房器具の転倒や漏電で一度火災が発生すると、その延焼規模が拡大する恐れもあります。必ずブレーカーを切って避難するようにしましょう。日頃から、暖房器具のそばには可燃物を置かない、火の元を確認するなど心掛け、もし地震が来ても焦らず落ち着いて行動できるようにしておくことが重要です。

